

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：23803

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580020

研究課題名(和文) 福沢健全期『時事新報』社説起草者判定

研究課題名(英文) To estimate the authors of the editorials of newspaper "Jijishinpo" until September 1898

研究代表者

平山 洋(Hirayama, Yo)

静岡県立大学・国際関係学部・助教

研究者番号：20244535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：福沢諭吉(1835～1901)が主宰していた新聞『時事新報』の社説を新たな方法を用いて判別したうえ、その中から福沢直筆の社説を選び出すことでジャーナリストとしての福沢の全体像を再構成した。具体的には判別の方法論の確立のために、まず福沢の署名著作の本文をデータベース化し、それらを基礎資料としつつ、社説の画像ファイルをテキストファイル化することで検索可能な形態とし、語彙の類似性を抽出することによって福沢直筆と推測できる社説を選び出した。

研究成果の概要(英文)：Newspaper "Jijishinpo" was Yukichi Fukuzawa (1835-1901) had been owned. The authors of the articles are determined by using a new method. It was reconstituted the essence of Fukuzawa as a journalist by picking the autograph of editorials Fukuzawa from among them. Specifically, for the establishment of a methodology for determination, I made database of signatures works of Fukuzawa. And while them with basic materials, they were searchable forms by text files from the image files of the editorials. They were selected editorials that they can be assumed that Fukuzawas autographs by the end to extract the similarity of vocabularies.

研究分野：思想史

キーワード：福沢諭吉 石河幹明 時事新報 井田進也 安川寿之輔 杉田聡 丸山真男 真偽判定

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現行版福沢全集の「時事新報論集」(社説約1500編収録)の社説選別の信憑性について、最初に疑義を表明したのは井田進也「福沢諭吉『時事新報』論説の真贋」岩波書店『図書』(1996・6)である。井田は、現行版全集(1958～1965)の「時事新報論集」が、かつてその主筆であった石河幹明編纂の大正版全集と昭和版続全集の「時事論集」を事実上合体させたものであることを示し、さらに現行版では削除されている続全集の「後記」に、所収社説の多くを石河が起草した旨の記述を発見している。また、井田は、実際に社説を起草していた時事新報社説記者個々の特徴的語彙と文体を掘り出して無署名社説の起草者の判定を試みている(光人社『歴史とテキスト 西鶴から諭吉まで』2001・12)。

一方、安川寿之輔は『福沢諭吉のアジア認識 日本近代史像をとらえ返す』(高文研、2000・12)において、主に昭和版続全集所収の社説を用いて、『福沢諭吉全集』21巻から朝鮮・中国に関する発言を洗いだし、そこに貫流する蔑視と偏見、帝国主義的思想構造を明らかにすることにより、丸山真男はじめ先行研究が作りだした“福沢神話”を福沢自身の言葉をもって根底からくつがえすと主張をなし、同内容の投稿を『朝日新聞』(2001・4・21)に掲載した。同年5月12日に本研究の代表者(平山)は『朝日新聞』紙上でその投稿に反論し、ここにいわゆる安川平山論争が開始された。そしてその経過のうちに社説の真偽判定の基準が必要であることが、平山にも強く認識されることになった。

同年夏以降井田の判定技術を援用して暫定的な基準を設け、それにより社説を判別する作業に入った。その結果、現行版全集の「時事新報論集」は、その事実上の編纂者である石河幹明によって恣意的な選択がなされており、それが安川らの福沢批判を招く原因になったとする『福沢諭吉の真実』(文春新書、2004・8)を刊行するにいたった。また、2002年から2011年までの論文等をまとめた『アジア独立論者福沢諭吉 脱亜論・朝鮮滅亡論・尊王論をめぐって』(ミネルヴァ書房、2012・7)をその延長上の研究書として刊行した。

2. 研究の目的

福沢諭吉(1835～1901)が主宰していた新聞『時事新報』(1882～1936)の社説の起草者を新たな方法論によって判別したうえ、その中から福沢由来の社説を選び出すことでジャーナリストとしての福沢の全体像を再構成する。

3. 研究の方法

研究方法について：本研究は、署名著作をデータベース化することによって井田メソッドの精緻化をはかり、もって無署名社説の起草者を判定するという方法がとられる。署名著作データベースは本研究に先立つ平成24年度中には完成した。無署名社説中の特徴的な語彙や表現が署名著作データベース中に見られるかどうか、そして似ていないとすればいずれの社説記者の文体に類似しているかを主な判定の材料とする。

研究方法の説明：本研究は、研究の代表者(平山)がテキスト化した社説をとりまとめ、研究協力者にそれらのネット上へのアップロードを委託し、福沢健全期の社説起草者推定を図ることを骨子とする。そのためには研究代表者・協力者・テキスト化を行う業務委託者3者の緊密な連携が必要とされるが、これら3者は一同に会する必要はなく、すべてネット上の通信のやり取りだけで完結できるところに、研究方法論上の新しさがある。

当該社説が福沢かどうかを判定する方法には、井田メソッドが用いられる。既述のようにそれは、あらかじめ社説を起草した可能性のある人々の署名入りの文章をストックしておき、そこから特徴的な語彙や文体を選んでおくことにより、それらを判定の基準とする方法であるが、インターネットの急速な進展と検索機能の充実によって、その効率化は飛躍的に高まった。すなわち、グーグル検索のサイト内検索機能を用いることによって、無署名社説内の特徴的表現が、「平山洋氏の仕事」内にある福沢や石河のどの文章内にあるか、また無いかが、たちどころに検索できるようになったのである。これは人が目視によって確認するという従来までの方法と比較して、大幅な時間の節約と精度の向上をもたらすものである。

4. 研究成果

2449編の社説をテキスト化し、そのうち以下の278編を福沢社説として抽出した。

18820309 朝鮮国の変乱・1516字

18820329 言論自由の説・595字

18820408 立憲帝政党の組織を論ず・板垣退助君の変報・3807字

18820420 花房公使赴任・1630字

18820513 一友亞國より歸る・1908字

18820620 郡區長公撰1・文字数2087字

18820622 郡區長公撰3・文字数1701字

18820722 地方の學校・1950 字
18820817 人和論・2061 字
18820828 竹添大書記官歸京・1775 字
18820907 朝鮮交際の多事に処するの政略如何・2029 字
18820921 石川縣會の紛議を論ず・3316 字
18820926 不愉快なる地位・2486 字
18820927 朝鮮滞在の兵員・2022 字
18821020 眞宗の運命久しからず・2242 字
18821108 鍊道敷設 / 重ねて賣藥論・2996 字
18821109 養老金の制を設く可し・2131 字
18821201 日本支那の關係・1978 字
18821214 朝鮮開國の先鞭者は誰そ・1979 字
18821222 朝鮮の獨立覺束なし・1922 字
18821228 政治社会の多事・1854 字
18830110 參議長を置くの風説・1892 字
18830410 日本人民の政治の思想・2033 字
18830503 土族の授産宜しく其精神を養ふ可し・2504 字
18830505 文明の交通法は必ずしも高尚ならず・2346 字
18830614 伊太利政府紙幣引換を實行す・2199 字
18830706 清佛の談判如何・1976 字
18830716 江越鐵道敷設に就ての問題・2152 字
18830806 文明の進路を遮ることなかれ・2039 字
18830813 公債証書の騰貴・2119 字
18830829 伊藤參議の心中喜憂孰れか大なるや・2114 字
18830921 朝鮮政務監理の派遣如何・1981 字
18831019 米の輸出正に緊要なり・1628 字
18831117 日本生糸の下落・文字数 2564 字
18840228 外國の資本を借來りて鍊道を興し以て内國の富源を深くすべし・2245 字
18840303 大に鐵道を布設するも商業顛滅の來る氣遣ひなし・3169 字
18840322 國の榮辱は必ずしも大事件のみに在らず・1817 字
18840626 税法の未來を想像して今日を警しむ可し・2344 字
18840627 治外法權撤去の直訴・3052 字
18840715 清佛兩國の和戰如何・2315 字
18840718 米國商家の氣風・2159 字
18840820 支那國の運命・2795 字・
18840826 佛蘭西と支那と戰爭の譯柄・2829 字・
18840903 攻防の軍畧・2901 字
18840906 東洋國・2447 字
18840910 黒船打ち拂ひ・2396 字
18840911 清廷の忠臣は君命に違ふ可らず・2245 字
18840916 滿清政府を滅ぼすものは西洋日新の文明ならん・2557 字
18840919 佛清事件は歐洲の政治論に關係あり・2024 字
18840929 俎上の肉・2419 字
18841004 必ずしも愛親覺羅氏の祀を絶たず・2028 字
18841010 滿世界に信を失へり・2570 字
18841014 黴毒の蔓延を防止すべし・2478 字
18841020 外情を知らざるの弊害恐る可し・2462 字
18841022 開國の準備遅々すべからず・1853 字
18841031 商機一刻價千金・2678 字
18841117 其利を享る者に其費用を均分すべし・1892 字
18841118 淡水亦陥りたり・2273 字
18841229 榮辱の決する所此一擧に在り・1654 字
18850105 談判は有形の實物を以て結了すること緊要なり・2114 字
18850110 二度の朝鮮事變・2794 字
18850112 日本男兒は人に倚りて事を爲さず・2895 字
18850116 支那の暴兵は片時も朝鮮の地に留む可らず・2418 字
18850123 京城駐在日支の兵は如何す可きや・2210 字
18850128 主戰非戰の別・2189 字
18850202 國權擴張は政府の基礎たり・1741 字
18850212 日本を知らざるの罪なり・2663 字
18850213 朝鮮に行く日本公使の人撰・1736 字
18850225 北京の談判・1832 字
18850304 京城の支那兵は如何して引く可きや・1968 字・
18850307 條約改正と北京の談判・2102 字
18850310 日清談判、英國の喜憂・1568 字
18850331 朝鮮變亂の禍源・2400 字
18850403 佛國內閣の更迭其影響如何・2637 字
18850415 仏清の和議、支那の幸不幸・1857 字
18850421 拂清の媾和は以て仏蘭西を輕重するに足らず・1880 字
18850505 日本人の外國行は其利害如何・1929 字
18850615 支那貿易に關係する日本の商民と商船・2761 字
18850625 英國の東方政畧・2523 字
18850915 新聞廣告の利用・1944 字
18851022 開國雜居一日も遲疑すべからず・3242 字
18851104 優勝劣敗恐るゝに足らず・2283 字

18851116 人力車夫の取締如何・1850 字
18860102 東洋豪傑の嘆・1574 字
18860106 朝鮮国小なるも日本との関係は小ならず・1746 字
18860215 衣食住の改良・2161 字
18860216 通信事務の改良・2638 字
18860219 條約改正の必要は獨り日本人の爲めのみならず・1770 字
18860306 朝鮮事情・2288 字
18860309 外國に行く者は其往くに任す可し・1734 字
18860311 米國と支那との紛議・2328 字
18860607 華族は不景氣の最も濃厚なる処に住す可し・1767 字
18860619 日本條約改正の影響・1710 字
18860628 金利の説・2188 字
18860630 商売社會の勝敗は正に今日に在り・1814 字
18860722 政府は相場所に課税干渉す可らず・2046 字
18860723 秘密は何人にも秘密たるべし・1575 字
18860814 演劇改良論續・2357 字
18860817 演劇改良論續(昨日の續)・2707 字
18860901 支那人の活潑なるは文明の利器に由るものなり・2245 字
18860902 今後支那帝國の文明は如何なる可きや・2221 字
18860908 朝鮮の國難は日本の國難なり・2021 字
18860916 官費を歎願するよりも外資を利用す可し・2521 字
18861013 支那の貿易・1650 字
18861019 支那の交際亦難い哉・1973 字
18861022 整理公債の募集に逢いて金穴の去就如何・2865 字
18861023 共同相場會所設立の噂あり・2300 字
18861103 相場の陋風は一掃す可し・商賣社會の安寧は重んぜざる可らず・2124 字
18861108 内外商人の交際・1589 字
18861111 今の新聞紙條例・3106 字
18861116 ノルマントンの事變をして日英の交際を妨げしむる勿れ・2117 字
18861127 偉なる哉英國人の舉動・1709 字
18861211 官廳公務の取扱を商賣風にする事・2491 字
18870201 私立鐵道は名の如く私立ならしむべし・1778 字
18870203 長崎事件、支那の外交官に告ぐ・1588 字
18870208 言ふ可くして行はる可らざる乎・2077 字
18870215 新桑田の租税を免すべし・1849 字
18870222 所得税論の參考・1759 字
18870414 商賣難・2278 字
18870509 小學の教育を僧侶に任する事・1753 字
18870525 閔泳翊氏復た朝鮮に歸り來らんとす・2224 字
18870803 洋行學者の注意・1750 字
18870903 日本社會論・2179 字
18870924 支那朝鮮の外國交際・2481 字
18871007 總理大臣の訓示を讀む・1929 字
18871015 共進會品評會の目的手段・3145 字
18871018 法官の正廉を維持するの説・1733 字
18871102 生絲製法の改良を望む・1776 字
18871105 朝令暮改咎む可らず・2373 字
18880111 時事新報に謝す・1225 字
18880127 米價論・2188 字
18880308 米國の鐵道家に望む・1927 字
18880309 生命保全會社創立・2637 字
18880403 眞成の政治思想を養成すべし・1872 字
18880516 教科書の檢定・1725 字
18880611 獨立の精神・2712 字
18880614 人生の快樂何れの邊に在りや・1896 字
18880711 德育の説・1546 字
18880712 政費の増加・1762 字
18880725 上海事變・1403 字
18880910 政略一變せざれば政費を省く可からず・1995 字
18880912 製鐵權の疑問・2050 字
18881019 文學の隆盛は經世の爲に祝すべきや否や・2211 字
18881020 國會は討論會に非ず・1797 字
18881109 ハリソン氏の政策・1487 字
18881213 商賣の廣告法・2287 字
18881222 公立中學校の廢止・1617 字
18881224 日本銀行の株券騰貴・1568 字
18890109 輸出品の免税・1145 字
18890121 宗教家の運動・1501 字
18890123 徵兵令・1970 字
18890226 リヴァプールの歳暮・1659 字
18890325 狂言筋書・1798 字
18890328 實業社會・1968 字
18890410 法律は掛念するに足らず又恃むに足らず・1863 字
18890417 政治壇上には利を説く可らず・讀メール新聞・2684 字
18890420 外國政府は思ふて他日の計に至らざるか・2003 字
18890518 日米の新條約將に成らんとす・2486 字
18890528 官設鐵道賣拂の風説・2030 字

18890529 公園地・芝居の時間・1896 字
18890601 日本の萬國博覽會・3807 字
18890627 僧醫の説・2489 字
18890720 大資本家の要用 1728 字
18890723 法典編纂の不容易・1864 字
18890919 工業社會の名譽・2305 字
18891005 官吏の國會議員・1727 字
18891017 内閣の方向・1738 字
18891028 舊内閣の辭職新内閣の組織・1351 字
18891031 社會の風景を殺す勿れ・1677 字
18891130 横濱の運命・1591 字
18891230 警察法・2375 字
18900306 米價をして自然の平準に在らしむ可し 2064 字
18900307 明治二十三年度の歳計豫算 1704 字
18900308 東京市區改正 1704 字
18900319 農商務省・2258 字
18900528 國會開設後の内閣・2242 字
18900609 法律の始末・1936 字
18900618 論争の順序・1836 字
18900620 日秘鑛業會社の失敗・1883 字
18900711 須らく無學なる可し・1800 字
18900718 林政論・2056 字
18900731 二重の撰擧權・輿論は如何・1754 字
18900802 衆議院の議事・2112 字
18900825 重ねて大坂米商會所・1613 字
18900920 壯士を如何せん・1758 文字
18900930 土耳其に使節を遣て條約を訂結す可し・1766 字
18901027 勤儉政略・1401 字
18910105 政府の歳計・2777 字
18910113 舉動を謹む可し・1471 字
18910326 六百萬圓の剩餘金・1424 字
18910411 尚商時代・1460 字
18910422 牧羊業・1868 字
18910423 伊藤内閣も亦見る可きものあり・1525 字
18910517 東京商業會議所・2041 字
18910601 社會復古論・2867 字
18910623 領事・2428 文字
18910625 筋書の趣向・2109 字
18911006 信任投票・1905 字
18911023 軍艦の遭難・1763 字

18911024 聯立内閣組織の手段は如何・2369 字
18911125 議會の論勢・1918 字
18911126 第二期議會の開院式・1274 字
18911128 鐵道買上・2200 字
18911213 議會の成行如何・2171 字
18920103 恩威と愛嬌・1933 字
18920113 衆議院議員の撰擧・1173 字
18920212 輿論の向背・1912 字
18920227 社會の耳目は甚だ聰明なり・2018 字
18920403 都て斷行す可し・文字数 1705
18920417 教育衰退の時機・文字数 1695
18920709 黒幕の運命・1798 字
18920723 民黨の方針・1824 字
18921202 施政の方針・1636 字
18921215 朝鮮國紙幣の發行・1728 字
18930126 今日と爲りては致方なし・3872 字
18930207 官民の交際に就て・1240 字
18930302 政費節減・1355 字
18930303 傳染病研究所の補助費・1206 字
18930524 論より證據・1596 字
18930530 海陸の運輸交通・1575 字
18930803 一時の虚影に非ず・1717 字
18930808 米國の臨時國會に就て・1868 字
18930823 方今の對外思想・1951 字
18930826 政技者の時代・2501 字
18930913 京濱鐵道・2245 字
18930921 利子補給問題・2335 字
18931110 海軍將校の技倆如何・3628 字
18931208 新聞紙條例の改正・1674 字
18940621 ペスト病原の發見・1362 字
18940624 支那兵増發の目的如何・1531 字
18940626 彼れ果して何を爲さんとするか・1535 字
18940628 支那人の心算齟齬せざるや否や・1542 字
18940718 故岩倉公の紀念に就て・1899 字
18940731 平和を破る者は支那政府なり・2106 字
18940802 支那人民・1770 字
18941011 有志の壮丁を使用す可し・1405 字
18951020 大に取る可し・1500 字
18951024 大に散ず可し・1415 字
18951225 第九議會・1012 字

18951231 護國心の消長・1275 字
18960105 植民地の経略は無用なり・1533 字
18960205 英國の舉動如何・1206 字
18960225 東京の地面・1438 字
18960304 國勢擴張は百年の業なり・859 字
18960327 朝鮮國王と露國公使・朝鮮の暴徒を鎮壓す可し・1907 字
18960530 黨員の不平聞くに足らず・1601 字
18960625 斷じて非獎勵法たらしむ可らず・1460 字
18960929 治水の計畫急にす可し・1579 字
18970204 進歩黨の紛議・1889 字
18970224 政黨の主義・1866 字
18970320 定期航海の特別助成金・希臘果して開戦するや否や・2802 字
18970325 希臘の舉動・列國の去就・會計検査院の爭論・3276 字
18970331 米國の關稅改正に就て・人材登用・2978 字
18970404 佛教の革新・1931 字
18970423 戰爭の成行如何・1387 字
18970424 次は外債募集なる可し・1780 字
18970427 文部省の紛紜・東歐問題の成行如何・3214 字
18970428 大學の始末・露兵傭聘の議に就て・2273 字
18970725 自から時勢を制す可し・1687 字
18970820 伊藤の歸朝を待つ可らず・2005 字
18970902 臺灣鐵道の事業・1712 字
18970923 遞信事業を獨立せしむ可し・1716 字
18970926 圓銀處分法の改正に就て・1755 字
18971123 保證準備の制限に就て・1679 字
18971210 經濟社會の危機・2096 字
18971219 日本の文明未だ誇るに足らず・1677 字
18980302 紡績業者の覺悟如何・1935 字
18980413 教育の方針・2240 字
18980504 朝鮮獨立の根本を養ふ可し・國民の負擔・2776 字
18980512 沙市の暴徒・京釜鐵道は朝鮮文明の先驅なり・2815 字
18980518 外交の大要を語る可し・1136 字
18980630 何故に男女を區別するや・3113 字
18980703 政治商賣・官吏の任免・日本銀行の公債買入れに就て・4607 字
18980811 又も償金の繰入れか・裁判所の暑中休暇廢す可し・2712 字
18980820 政黨内閣の試験石・3110 字
18980902 今の政府に分裂の勇氣ありや・1911 字

18980908 繁文縟禮の最も甚だしきもの・4667 字
18980928 支那の政變に就て・憲政黨の長短・3220 字

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)
「石河幹明入社前『時事新報』社説の起草者推定-明治15年3月から明治18年3月まで-」2014年9月『国際関係比較文化研究』第13巻第1号、静岡県立大学
「『時事新報』社説の起草者推定-明治18年4月から明治24年9月まで-」2015年3月『国際関係比較文化研究』第13巻第2号、静岡県立大学
「福沢署名著作の原型について」2015年10月『日本思想史学』第47号、日本思想史学会

[学会発表](計3件)
「石河幹明入社前『時事新報』社説の起草者推定-明治15年3月から明治18年3月まで-」2013年10月日本思想史学会2013年度大会、東北大学
「『時事新報』社説の起草者推定-明治18年4月から明治24年9月まで-」2014年10月日本思想史学会2014年度大会、愛知学院大学
「『時事新報』社説の起草者推定-明治24年10月から明治31年9月まで-」2015年10月日本思想史学会2015年度大会、早稲田大学

[図書](計0件)
[産業財産権]
出願状況(計0件)
取得状況(計0件)

[その他]
ホームページ等
平山洋氏の仕事
<http://blechmusik.xii.jp/d/hirayama/>

6. 研究組織

(1)研究代表者
平山 洋(Hirayama Yo)
静岡県立大学・国際関係学部・助教
研究者番号:20244535